

関連図書展示

今回のサイエンスカフェ、ゲストのお二人の研究に関連する図書を集めてみました。

せっかくの機会なので、お二人の研究分野について、もうちょっと知ってみませんか？

参考までに内容のむずかしさを一目でわかるようにしました。ご自身のニーズに合わせて、ご覧ください。



【高校生・一般の方向け】 その分野のことを知らなくても大丈夫。



【学部生・他分野の研究者の方向け】 化学や生物学の基本的な知識が必要。



【専門の研究者の方向け】 より深い知識を得るための専門書。

■岡村先生関連本

【電気生理学、特にイオンチャネルについて】



杉晴夫『生体電気信号とはなにか：神経とシナプスの科学』(書誌ID=2003688386、開架K/B/1523) 



ガルバニの電気によって筋肉が収縮することを示したカエルを使った実験から時代を追って神経を伝って伝わる生体電気信号の研究の歴史を図を多く使って解説した本。

曾我部正博 編『イオンチャネル：電気信号をつくる分子』(書誌ID=2003233131、464.9/SHI/5) 

図やコラムなど多く使いイオンチャネルの構造や研究法についてまとめている1冊。

村越隆之ほか『イオンチャネルの分子生物学』(書誌ID=2003428563、開架490.8/Jik/28) 

130ページほどでイオンチャネルの構造から病態へのかかわりまで書いたコンパクトな1冊。

倉智嘉久編集『イオンチャネル最前線update』「医学のあゆみ」別冊

(書誌ID=2004219192、開架491.4/KUR) 

上記の本よりもより突っ込んだ内容。構造から疾患へのかかわりまでイオンチャネルの研究が1冊にまとめられている。

【ホヤについて】

中内光昭『ホヤの生物学』(書誌ID=2003220739、総合図書館で所蔵) 

一冊丸ごとホヤの本。無性生殖と有性生殖を両方したり、幼生は口すらなかったり、不思議なホヤの世界にどっぷり浸かれる本。

【おまけ】

加藤元一『科学者の歩める道：不滅衰学説から単一神経繊維まで』(書誌ID=2003403933、集密499.51/Kag) 

日本の生理学の立役者加藤元一の自伝。当時否定されていた不滅衰学説（神経を伝わる電流が伝わる間に減っていかないという説）の概要から、ストックホルムでの万国生理学会で公開実験での成功など生理学の歴史を見るといっても、研究者の人生を見るといっても面白い1冊。

■上川裕子先生関連本



【蛍光タンパク質とイメージング技術について】

『生化学若い研究者の会編著『光るクラゲがノーベル賞をとった理由（わけ）：蛍光タンパク質GFPの発見物語』
(書誌ID=2004122439、総合図書館で所蔵)

2008年に下村博士がノーベル化学賞を受賞した。その受賞理由となった「蛍光タンパク質」。それが生命科学の分野においてどんな意義があるものなのかをイラスト・写真つきで分かりやすく解説した1冊。

池田圭一、武位教子『光る生き物：ここまで進んだバイオイメージング技術』(書誌ID=2004150056、総合図書館で所蔵)

一般の方向けにちょっと気になる科学の話題のことを分かりやすく解説する「知りたい！サイエンス」シリーズの1冊。

宮脇敦史『蛍光イメージング革命：生命の可視化技術を知る・操る・創る』「細胞工学」別冊(書誌ID=2004216141、開架433.5/MIY)

日本における蛍光タンパク質の応用研究の第一人者・宮脇敦史博士が、雑誌『細胞工学』に2003年から2007年に掲載したエッセイをまとめたもの。著者独特のたとえ話が面白い。

菊地和也監修『蛍光イメージング/MRIプローブの開発』(書誌ID=2004248091、理工学図書館で所蔵)

上川先生所属研究室の主任研究者菊地先生監修の本。日本において先端を行く気鋭の著者たちによって書かれており、「プローブ」についての最新動向を把握したい研究者の方にお勧め。

【ケミカルバイオロジーについて】

入門ケミカルバイオロジー編集委員会編『入門ケミカルバイオロジー』(書誌ID=2004210736、総合図書館で所蔵)

上川先生の取り組んでいるプローブ開発も含まれる、新しい学問分野の「ケミカルバイオロジー」とは何かを身近な事柄からわかりやすく解説した1冊。

長野哲雄ほか編集『ケミカルバイオロジー』(書誌ID=2004088088、開架464/NAG)

上川先生所属研究室の主任研究者菊地先生も編集に参加している本。重要な論文からケミカルバイオロジーを理解する、という新しいスタイル。

浦野泰照編集『疾患克服をめざしたケミカルバイオロジー：がん医療や創薬に貢献するin vivoイメージングと生体機能解析・制御の最前線』「実験医学」増刊(書誌ID=2004245464、開架491.4/URA)

疾患克服の観点からケミカルバイオロジーを扱った本。臨床研究者と基礎研究者双方に向けて書かれている。

【おまけ】

下村脩『クラゲの光に魅せられて：ノーベル化学賞の原点』(書誌ID=2004109222、総合図書館・理工学図書館で所蔵)

2008年にノーベル化学賞を受賞した下村博士の受賞記念講演会をもとに編集された1冊。下村博士の研究内容のみならず、人生や研究スタンスも知ることができる。高校生や学部生、若手研究者の方必見。